

年間第 28 主日 (マルコ 10:17-30)

あなたに欠けているものが一つある



10月10日に、浦上教会でヤコブ山内豊神父様の葬儀ミサが行われ、葬儀ミサの説教をお願いされましたので思うところを話しました。「惜しんでわずかししか種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです。」(二コリ 9・6)という箇所を、コリントの信徒への手紙二から引用して、豊神父様は文字通り、「豊か」な生き方で司祭職をまっとうしました、そのように話しました。

27年ご無沙汰していた浦上教会の説教台に上がって説教したのですが、不思議と福音書朗読の時も説教の時も落ち着いていました。長らく上がったことのない場所に上がれば、少しは緊張するかなと思っていたわけですが、その兆候さえありませんでした。落ち着き払っていました。

しかし、それが実は落とし穴だったかも知れません。念のため録画と録音をして持ち帰り、あとでチェックしているうちに、なんか奢りとかが見え隠れするなあと考えたわけですが。精一杯考えた内容なので誰にも恥じることはありませんが、肝心の山内豊神父様には、「あんたのそういう所は、直さんといかんね」と言われている気がしました。

一つのことを長く続けていると、自分が歩いた時間・経験にあぐらをかいてしまって、自分が今どう映っているか見えなくなることがあります。一つの生き方を貫く中でも、同じことがあります。今週の福音朗読で登場した「金持ちの男」は、「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」(10・17)とイエス様に尋ね、イエス様は一つの答えを示しました。

それに対し金持ちの男は「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」(10・20)と答えます。皆さんは、この答えを純粋な答えと受け取ったのでしょうか？わずかに、ドヤ顔しているように聞こえなかったのでしょうか。今年はB年ですからマルコ福音書から朗読が取られています。関連する箇所はマタイ福音書にもあって、マタイでは「そういうことはみな守ってきました。まだ何か欠けているのでしょうか。」(マタイ 19・20)と答えています。明らかにドヤ顔していますよね。

そこへイエスは付け加えるのです。冷たく突き放すのではなく、彼を見つめ、慈しんで言います。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」(10・21)

あっと驚く指示だったので、金持ちの男は「気を落とし、悲しみながら立ち去った」(10・22)となっています。この金持ちがその気になれば、全財産を売り払っても、また同じだけの財産を築くことは出来たでしょう。だから立ち去る必要は無かったはずですが、そこまでの信頼をイエスに持てなかったのが、立ち去ってしまったのだと思います。

中田神父は、「行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい」このことばよりももっと注意すべきことばがあると思っていま

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

す。それは「あなたに欠けているものが一つある」ということばです。イエス様は、金持ちの男にだけでなく、私たちすべてに、「あなたに欠けているものが一つある」と声をかけることができるお方なのです。

今日、一人の大人の方が洗礼をお受けになります。洗礼名はマルコを選びました。今年はマルコ福音書を主に朗読していきます。できれば、これからマルコ福音書に親しみをもって読み続けてくださればと願います。マルコ福音書は、洗礼を受けて間もない人々を導くために書かれた福音書と言われます。またいちばん短い福音書、簡潔に描かれた物語です。このからの信仰生活にぴったりだと思えます。

ぜひマルコ福音書の中で語りかけるイエス様のことばによく心を開き、仮に「あなたに欠けているものが一つある」という声が聞こえたときも、その声に耳を澄まして、何が欠けているのか、考える人になってほしいです。洗礼を受ける心構えは出来たでしょうか。それではこれから洗礼の儀式に入りたいと思えます。

年間第 29 主日(マルコ 10:35-45)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。